

コロナに克つ！

そのだ ひさこ

わが家の窓辺、山椒さんしょうの茶色の枝から、みるみる初々しい新芽が匂い、雑草の緑も生いしげり、わが庭は酸素があふれている…こんな春！ 新型コロナウイルスの感染拡大がついにパンデミック（感染爆発）とみなされた。世界はコロナウイルスにおびえ続ける日々…。感染者も死者も増え続けている現実。4月からの緊急事態宣言下、毎日テレビのニュースに釘づけ状態。どうすることもできず、見えないものへの恐れに心身ともにじりじりと疲弊してくる。

こんなことは、私は今までの人生での初体験であるが、世界は今まで、ペスト（14世紀）やコレラ（19～20世紀）、スペイン風邪（20世紀）など、何度も感染症におそわれ、多くの死者を出してきた。スペイン風邪の時は第1次世界大戦の末期であり、アメリカで発症したインフルエンザがアメリカの参戦によってヨーロッパに「輸送」され、数千万人の死者が出た。大

正時代の日本も約40万人が死亡した。

現在も医師・医療従事者の方々のすさまじい献身的な努力がなされているが、4月下旬いまだ、沈静化の兆しは見えない。どこでも、【密】をつくらない！ 日本人たちが、今やるべきことをやる。他に私たちにはできないことはないのかと考えるながらも、おびえは広がるばかり。地球を滅ぼしてしまいうくらいの核兵器はあるというのに！ どうすれば…！

ふと「ここに家建ててもいいかあ？」「いいぞお」、「ここで火をたいてもいいかあ？」「いいぞお」という宮沢賢治の童話の中の言葉が浮かぶ。人間と自然の呼応をほうふつとさせる言葉。私たちは「地球」というお星さまの（側端がわたん（表面））に、長く広大な宇宙の歴史の中で、いまだ、ほんのしばし住んでいるに過ぎない。その側端はあちこち傷つけられて悲鳴をあげている！ 人は動植物の命をもらって生きて

いる、空気や水に抱かれ生きていくのだ。その空気も水も汚染されつづけ…自然が滅びれば人も滅びる。

地震やがんなど死におびえ、何度も命を助けていただいた私は今、コロナにもおびえる日々である。そこで先日、「コロナに克つ!! 自分とみなさまへのエール」というメッセージを友人たち数十人に発送した。「コロナに克つ！ キーワードは『免疫力』！ 人間や子どもがすきで、日夜頑張っているみなさまへ精一杯のエールをこめて、サプリーを送ります！」である。ささやかだが、さっそく愛用のサプリーを送った。感染から身を守ることが、他の人々を守ることが、そして献身的な医療従事者を守ることが考えながら。心は、緊急事態の中でも私たちの生活を懸命に支えていただいている多くの人との連帯感を持ちながら、自分で克つしかない！ しなやかに、したたかに。

- TUNAGU II とは 人権尊重のまちづくりの一環として、さまざまな人権問題について市民の皆さんと共に考えるために、そのだ ひさこ先生(福岡県人権研究所副理事長)に執筆していただき、偶数月1日号に掲載しています。タイトルの「TUNAGU」には、人と人、心と心をつなぐ、世界とつなぐなど、「共生」と「人権」の時代の到来を願う歴代の執筆者の思いが込められています。

- 問い合わせ先 教育政策課 人権・同和教育担当